

多摩デポ通信 第47号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2018年8月1日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三二・一八

●HP / <http://www.tamadepo.org/>

●E-Mail depo_tama@yahoo.co.jp

総会を終え、
新年度が始まった

バーチャルな共同保存から、
リアルな共同保存へ

発足から十年過ぎても、
私たちは施設・建物としての
共同保存図書館は、自力
にせよ他力にせよ創り出せ
ていません。各市町村の図
書館は（自治体ごとに大小
の差はあるにせよ）有限ス
ペースというハコの中で、
それぞれ孤立した蔵書管理
を強いられています。

このことは、（利用者のリ
クエストに応えた資料提供、
そのための軽やかな図書館

同士の相互貸借」というサ
ービスの定着とは、あまり
にも対比的です。

資料収集をすすめれば、
その保存をどうする？とい
う課題が起こるのは必然で
す。確実な保存がなければ、
確実な相互貸借による利用
者への提供もあり得ません。
ある事業が40年、50年成功
裏に続けば、当然、それを
支える次の課題が生まれま
す。資料保存問題は、（図書
館という事業が盛んになり
定着してきた）ゆえの必然。
図書館関係者、愛する誰も
が直視しなければならぬ
問題だと思えます。

これを突破できなければ、

図書館の未来はないでしょ
う。そう考えて取り組んで
いきます。まずは各館での
除籍と保存に手を付けると
ころから。



「TAMALAS
一括処理システム」
自治体単位での申請の
受付開始

7月10日に開かれた東京
都市町村立図書館長協議会
（多摩の館長会）の例会に
座間理事長と齊藤理事が出
させてもらい、各自自治体の

図書館長に、多摩デポ及び
TAMALASの説明と、
新たに開発した「TAMALAS
一括処理システム」
の紹介を行いました。

この間、『通信』で伝えて
きたように、今までもHP
に常時公開してきたTAM
ALASの発展形である
「一括処理システム」は使
いたい自治体から多摩デ
ポがID、パスワードを発
行して使ってもらおう。一度
に大量の蔵書データを投入
し、検索結果をアップロー
ドする仕組みです。

今号の略式目次

- ・新年度が始まった
- ・TAMALAS 一括処理申請開始
- ・共同研究報告 その15
- ・塩見昇氏総会記念講演会
感想（田代守、江森隆子）
- ・「カーリルの最新動向」
論文紹介
- ・西日本豪雨による図書館被災
- ・図書館雑誌「窓」紹介にふれて
- ・「第33回多摩デポ講座」案内

上手に使って各館の蔵書管理に役立てていただきたい。館長たちを前に、システムの若干のデモ、利用申請の方法や「一括処理システム」の活用マニュアルの説明を行ない、申請用紙の配布をしました。

多摩デポは、NPO法人としての法人格を持っています。今回、他組織と利用協定を結ぶことになり、法人格を取っていることが機能したことになります。今後も法人として責任ある対応をしていきます。

7月中旬に申請があり、ID、パスワードを発行しています。こういう手段がとれるなら閉架書庫の全量を一度点検してみたい、という私たちにも想定外の自治体も出ています。

使い始めてもらいながら、改良要望に対応しているところですよ。

(株)カーリルとの共同 研究定例会報告 その15

共同研究で開発した、多摩地域の公共図書館の所蔵を横断的に検索する「多摩地域公共図書館蔵書確認システム(通称TAMALAS)」が、「TAMALAS個別処理システム」と「TAMALAS一括処理システム」から構成されることを示すことができました。

「個別処理システム」は、既に2016年5月から多摩デポのホームページで誰にでも公開しています。タイトル毎にISBNを入れて多摩地域の全公共図書館の所蔵を確認します。

今回さらに、図書館が大量のタイトルについて一括で検索できる「一括処理システム」を開発しました。

どちらも、多摩地域の図書館全体で希少なタイトル(所蔵が二冊以下)を除籍

しないで確実に残すための支援になることを意図しています。

実証実験も行い、次に掲げることを確認しています。それを説明し、図書館現場の利用を促していきます。

▼多摩デポが提供するTAMALASは、各図書館システムの運用時間やメンテナンスによるシステム停止、またシステムの相性などの影響を受け、接続のタイミングによっては検索結果に違いが出る場合がある。

▼検索をした時に接続できなかった自治体については、その旨を表示するシステムになっているが、その時にはすべての図書館を網羅した検索結果とはなっていない。

▼しかしこのシステムは、データがないものを(ある)と表示することはな

い。

▼つまり、このTAMALASの検索で2冊以下となった資料を各図書館が保存すれば、多摩地域全体で最低限2冊は保存している(資料保存は安全な方向に傾いている)結果になる。

今回のシステム開発は、(株)カーリルとの共同研究で実現したものであり、改めて共同研究の意義を認識しています。(株)カーリルには感謝を申し上げます。4ページに、カーリルのメンバーが発表された「カーリルの最新動向」という雑誌論文を紹介しました。



総会記念講演会 塩見昇氏のお話

総会記念講演会には塩見昇氏のお話を伺うことができた(5月20日)。演題は「図書館づくりの現況から『保存』を考える」。

塩見氏の出発は大阪市立図書館司書であり、のちに大阪教育大学の教員に転じられたが、公立図書館の新設や司書採用の多い時期に、関西で長く司書養成をされてきた(参加27人の講演会だったが、終了後の懇親会では何と「塩見さんに習った」と自己紹介する方が複数いた!)

そして20世紀後半の公立図書館の成長期を通じ、日本図書館協会の「図書館の自由委員会」創設や「図書館政策特別委員会」の「公立図書館の任務と目標」策定(都道府県立図書館の第二線の役割を提起した)に

関わられた。2005年から2013年までは協会の理事長を務められていた。

公立図書館の普及の次の課題として、資料保存にはどのような構想を描いていたか、現状をどう見るか、シリアスな課題を話していただいた。短めの講演時間に大変大きなレジュメを用意され、序論から本論に入ったところで時間切れとなつてしまった。

あとは本年度中に発行予定の「ブックレット」で学ばせていただこう。



塩見先生のお話を聞いて

田代守(会員)

塩見先生には、3月に日本図書館協会でも今回とで今年になってから2回もお話を聞く機会が与えられ、喜んでいきます。さらに、先生のお元氣そうな様子もお伝えしておきます。

レジュメの通り始まりましたが、内容が盛りだくさん。時間が短くてレジュメの半分ぐらいで終了になってしまいました。「ブックレット」になることが決まっているので、全体を読む機会がこれからあると思います。当日来られなかった方も、ぜひ手に入れてください。

レジュメの中で気になったのは、保存し次の利用者(世代)に残すことの意義を本当に考えているのかということ。しかし「ブックレット」になったら、それ

も何度も読みかえすことが出来ませぬ。

本当に良い機会でした。というのは、会の終わりに二人の方の訃報を聞きました。私より若い方がと、残念でなりませんでした。

思い出したのは、(正確ではありませんが)アフリカのことわざの「年寄りが亡くなると事典が一冊なくなる」という言葉です。でも今は、文字があり印刷され、残ることにより、たくさんの方が読み考え、(知恵)が次に伝えられる。それは素晴らしいことです。

よい時間を共有しました。



講演で考えたこと

紙芝居文化推進協議会

江森隆子

塩見さんは講演の中で、東京都立図書館の蔵書廃棄

の時に多摩地域の図書館の取り組んだ活動について話されました。都立図書館の職員は市町村立図書館に感謝していました。そして10

年がたち、都立多摩図書館は立川市から国分寺市に移転しました。移転計画についても移転してからも、多摩地域の図書館に相談・協議・報告もなく、開館のセレモニーに図書館長や関係者の招待もなかったと聞いています。今、都立図書館は単独で図書館サービスができると考えているのでしょうか。

都立多摩の開館時にはヤジウマの一人として都立多摩を見学しました。書庫には十分な余裕があり頼もしく感じました。それにしても見学にこんなにたくさんヤジウマが集まったのはなぜなのかな？ 私は都立図書館が都民のためにあってほしいという願いがあ

るからです。そのひとつ、市町村の除籍資料の共同保存は都道府県立が責任をもつて行なってもらいたい。そのため書庫です。塩見さんが言われるように、これは双方の利益になる合理的な施策です。

都立図書館は1400万人近い都民に対して公平なサービスをする図書館です。都民はどこに住んでいても公平なサービスをうける権利があります。図書館に近い人だけが有利であってはならない、とすれば地域の図書館の手を借りなければ不可能です。さらに図書館は「求めに応じて」サービスを提供する、という表現をよくしますが、地域の図書館はその「求め」を掘りおこす仕事もしています。都立図書館には3億円ほどの資料費がありますが、出版されているものの数割しか所蔵していません。私の

関心のある紙芝居でいえば年刊70点ほどしか出版してないのに全点購入どころか半分も収集していない。区市町村の図書館を統合検索すれば幅広く収集しています。

協力貸出や協力レファレンスの「協力」という言葉には以前から少し違和感がありました。借りる館からみれば援助してもらっている感じが強いかもしれないけれど、都立から見れば自館の資料を利用してもらうために地域図書館の援助をうけているのです。今回の塩見さんの話の中では、都道府県から市町村への「協力援助」の意味が濃いように思えました。

これから図書館がすべきサービスについてたくさんヒントをもらえた講演会でした。

「カーリルの最新動向」

(論文の紹介)

多摩デボが2014年以来共同研究を進めてきた(株)カーリルのふじたまさえ氏による論文が『情報の科学と技術』68巻6号(2018)に掲載された。

「特集 図書館と企業の連携」のひとつ「カーリルの最新動向―APIで広げる図書館ウェブサービス」で、同社の事業の現状と今後の展望が簡潔にまとめられていて勉強になる。構成は、1. はじめに―カーリルと図書館 2. 図書館との連携事例 3. よくあるすれ違い 4. おわりに―カーリルのミッションというもの。2. 1 都道府県立図書館の横断検索サービスでは、2016年にカーリルが提供する横断検索技術が京都市立図書館で採用されたのを初めとして、採用する都道府県が増加してい

ること、2. 2 都道府県総合目録の将来像に関する研究プロジェクトでは、クラウドソーシングによる書誌同定の試みが紹介されている。これは、ISBNが付与されていない書誌の同定をどうすすめるかという多摩デポの現在の課題にとつて大変参考になるものである。

次の2. 3 共同保存の支援(多摩デポとの共同研究プロジェクト)ではTAMALASの共同開発の経過と成果が簡単ではあるが説明されている。(株)カーリルと、図書館現場に近い立場からあれこれ議論を交わす中で、ひとつひとつ積み重ねてきたことが全国に紹介されることは私たちにとても励みになる。

以下、2. 4 館内OPACのリニューアル(となみつけ) 2. 5 カーリルの横断検索APIのひろが

りと続く。特に、3. 1 機能とサービスの混同、3. 2 コミュニケーションはコストである という指摘は、毎回の定例会に参加する中で分かるようになってきたことだ。

共同研究・開発はまだその途上にあるが、カーリルのミッション「図書館をもっと楽しく」に加えて、現在と未来の利用者に役に立つ図書館のために、私たち多摩デポもさらに努力しなければならない。

西日本豪雨による 図書館資料の被災

7月の豪雨により、以下の図書館で施設、設備、資料に被害がありました。

- ・倉敷市立真備図書館(岡山県)：書庫と1階開架が水没。12万7千冊が被災。



岡山史料ネットが図書館や隣接の真備歴史民俗資料館の古文書に応急処置。

- ・大洲市立図書館肱川分館(愛媛県)：1万7千冊の蔵書が全て水没。

- ・宇和島市立簡野道明記念吉田町図書館(愛媛県)：半地下の1階書架が汚泥で1m40cm埋まった。(3階の郷土資料や簡野道明資料・古文書は無事)。

- ・福知山市立大江分館(京都府)：床上約50cm浸水。開架書架約2千冊が被災。

- ・このほか、高梁市立図書館BM(岡山県)も被災。

日本図書館協会や国立国会図書館カレントアウェアネスが情報発信しています。予測ができないほどの近年の自然の猛威。どの図書館も防災・減災対策は大事です。いまいちど対策をチェックして!

(事務局 吉田)

『図書館雑誌』5月号の巻頭言「窓」を前東久留米市立図書館長の岡野知子氏が「多摩の図書館」と題して書かれています。

ご自分の三十数年の仕事振り返り、1970年に発表された『市民の図書館』を指針に、ともに図書館づくりを並走してきた回りの図書館を想い、やはり「多摩の図書館には伝統と底力があるのではないか」とすすめる中で、多摩デポのことも例示していただいています。大変ありがたいです(見逃していた方、どうぞお読みください)。

ただ、次の多摩の展望を何とか切り開きたいと努めてきた私たちにとって、問題意識に並走する動きが出てきてこそ「底力」を信じられる、共感できる巻頭言なのに、という思いをお返ししておきます(必ずしも(ともに)でなくても)。

文責 堀

第33回多摩デポ講座

図書館計画で書庫を どう考えたらいいのか

講師：寺田芳朗（図書館建築・都市計画コンサルタント）

日時：8月6日（月） 午後6時30分～8時45分

会場：立川市女性総合センター・アイム第2学習室（5F）

資料代：500円 どなたでも参加できます

多くなりつつある
多摩地域の図書館には
どこにも共通の課題
多摩市の本館再構築の
支援にも参加

寺田芳朗さんは、時々の図書館界の考えと自治体や市民の要望に向き合ってきました。1980年代からの活発な図書館新設の中で、緻密な計画と計算に基づき大きな仕事をしてこられました。神奈川県大磯町、福岡県荏田町、佐賀県伊万里市、埼玉県小川町、千葉県君津市、福島県南相馬市などの建築を手掛けられ、これらは開館後の運営や利用も含め、今でも見るべき図書館と言われています。当初は（新しい運営経験が図書館界に乏しく）保存や書庫への関心が薄い時もありましたが、経験が全国に蓄積される中で、利

図書館計画、建築上で認識されるようになります。寺田さんも「公開書庫」を提案しています。

しかし資料運用、開架と書庫の関係など、よき図書館を作るためにはさらに議論が深まる必要があるとおっしゃいます。

多くが開館4～50年を迎える多摩の各市には、新築、移転あるいは廃館を含めた図書館再編の話題があります。そんな中、議論を重ねた「多摩市立図書館本館再構築基本構想」が決まり、同市HPで公表されています。寺田さんはこの策定委員会でも支援コンサルタントを務められました。お話し、もちろん書庫だけの議論ではありません。どこの図書館職員にも市民にも参考になると思います。ぜひおいでください。

★会の現勢

2018年8月1日

現在

●正会員

（個人会員 84名）

（団体会員 2団体）

●賛助会員

（個人 46名）

（団体 1団体）

会の活動は皆様の会費・ご寄付で支えられています。新年度用の会費がまだの方は、納入をよろしくお願います。

●年会費

正会員（個人・団体）

五千元

賛助会員一口 二千元

（個人一口 団体五口以上）

